

専門家のご意見

【感染状況について】

専門家	意見
朝野座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人流の増加とともに 20 代、30 代を中心に現役世代が増加傾向に転じ、大阪市内の増加傾向が明らかになってきており、デルタ株の頻度の増加と相まって第 4 波で経験したような急激な増加の相に入る可能性が高まっている。</u> ・ 示された解析に加えて、昨年との比較を追加で述べる（図：2020 年と 2021 年の同時期の 7 日間移動平均の対前週比の推移） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 第 4 波における感染者数の対前週比の波形は、昨年と類似していた。 ➢ 2021 年は 6 月になり減少の速度が鈍化し、6 月末には対前週比が 1 を超え感染者数は増加の傾向を示している。 ➢ <u>この傾向は 2020 年と一致しており、気候ではなく人の行動に基づく季節性要因が原因であることがこれまでの経験で推測される。</u> ➢ 2020 年は 6 月末から 7 月、8 月にかけて増加（前週比 1 以上）が続いたことから、2021 年もこのまま増加の傾向につながり、<u>第 5 波を形成して行くことが予想される。</u> （注：2020 年の 6 月に波形が大きく上下するのは感染者数が 1 桁と少なかったことによる） ・ 第 4 波では、50 代以下の重症化、死亡の割合が増加し、感染経路別では施設内、医療機関内感染による死亡者の割合が減少している。ワクチンが一定の効果を示してきている一方で、<u>感染者が増えれば、50 代以下でも重症者、死者が増え、医療がひっ迫することが明らか。</u> ・ <u>まとめると、大阪府の感染状況は既に増加のトレンドに入っており、このまま増加して行く可能性が高い。そのため、増加のスピードを抑えることが現在執るべき対策の目標となる。</u> ・ <u>このためにはまん延防止等重点措置の延長もしくはそれに類する対策の継続が必要と考える。</u> ・ <u>ワクチンの効果は表れてきており、高齢者の接種を完了した後も、若い世代への接種を加速すべきである。</u>

